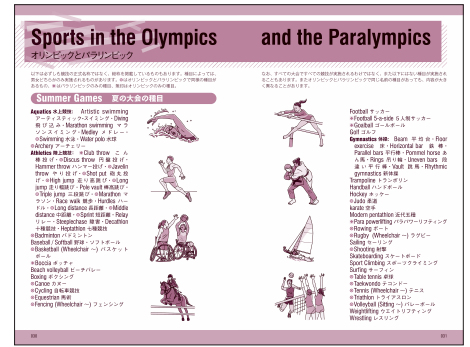
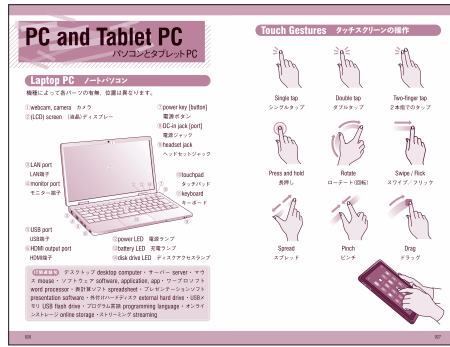
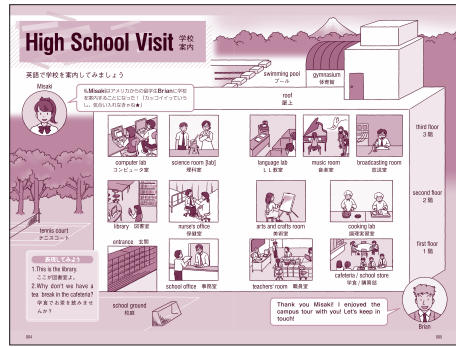


ポイント

「話す」「書く」といった発信活動を効果的に行うためには、基本となる単語の使い方を、辞書の本文やフォーカスページでしっかり身につけると同時に、身の回りのものについての単語を覚える必要があります。巻頭カラーのピックアップページを活用して、身の回りのものについての英語で話せるようにしましょう。また、日本語で何と言うかがよくわからないものも、ピックアップページなら探せるかもしれませんね。



チェック 1

ピックアップページにある学校案内、パソコン、オリンピックとパラリンピックのページを見て、それぞれの英語を書きましょう。例) テニスコート tennis court

- (1) 図書室 \_\_\_\_\_
- (3) 理科室 \_\_\_\_\_
- (5) 表計算ソフト \_\_\_\_\_
- (7) やり投げ \_\_\_\_\_
- (9) 大回転 \_\_\_\_\_

- (2) 保健室 \_\_\_\_\_
- (4) 長押し \_\_\_\_\_
- (6) 走り幅跳び \_\_\_\_\_
- (8) ボッチャ \_\_\_\_\_
- (10)  \_\_\_\_\_

チェック 2

ピックアップページにある買い物、スマートフォン、列車やバスなどのページを見て、それぞれの英語を書きましょう。

- (1) 試着していいですか \_\_\_\_\_
- (3) 電話をかける \_\_\_\_\_
- (5) 絵文字 \_\_\_\_\_
- (7) 自動改札 \_\_\_\_\_

- (2) 試着室 \_\_\_\_\_
- (4) 電話を切る \_\_\_\_\_
- (6) 顔文字 \_\_\_\_\_
- (8) 点字ブロック \_\_\_\_\_